In Quest
of the Century of Life

「生命の世紀」への探求

・

L・ポーリング／池田大作

科学と平和と健康と

・

・

読売新聞社

In Quest
of the Century of Life

生命の世紀への探求

L・ポーリング　池田大作

科学と平和と健康と

読売新聞社

「生命の世紀」への探求　科学と平和と健康と

著　者――L・ポーリング／池田大作
編集人――篠原義近
発行人――杉林　昇
発行所――読売新聞社
東京都千代田区大手町一―七―一　〒一〇〇―五五
大阪市北区野崎町八―一〇　〒五三〇
北九州市小倉北区明和町一―一一　〒八〇二
名古屋市中区栄一―一七―六　〒四六〇
印刷所――凸版印刷株式会社
製本所――凸版印刷株式会社
第一刷――一九九〇年（平成二年）十月　二日
第十九刷――一九九一年（平成三年）一月　十七日
定価はカバーに表示してあります。

ISBN4-643-90085-7 C0012
© 1990, Linus Carl Pauling & Daisaku Ikeda
落丁本・乱丁本はお取り換えいたします。
Printed in Japan

「生命の世紀」への探求

——科学と平和と健康と

まえがき

われわれは世界の歴史上、きわめて重要な時を迎えている。米ソという二つの核超大国が、年間、軍備に六千億ドルという巨額の費用を使っている。この費用の多くは浪費という以外にないものだ。

米ソ間の核戦争は、文明の最期、すなわち人類の終末を確実に意味するであろう。そうした核戦争が起こる可能性を考えることは、まったく理性に反するものである。

第一次大戦と第二次大戦での破壊がきわめて甚大であったので、戦勝国でさえも利益にはならなかった。勝った国でさえ何百万という人命はおろか、膨大な富を破壊されるという大きな被害をうけた。まして、第三次大戦はすべての国と国民に考えられないような損害を与えるという点で、今までの戦争とまったく異なるものとなろう。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

いまやこれらの事実が認識され行動が開始されねばならない時だ。軍事に浪費されている費用を、世界中の人類の福祉のために使うようにしなければならない。

ここ数十年間にわたり池田大作氏と私は、軍縮と世界の相互理解と世界平和の目標を実現するために働いてきた。一九八七年と一九九〇年に創価大学ロサンゼルス分校で、私たちは、これらの諸問題と人類の未来について語り合った。

私たち二人がいま進めている努力は、本書の対話のなかに詳細に述べられてある。私はあらゆる人々がこの対談集を読み、不戦と平和な世界の建設という目標を実現するために自ら立ち上がる決意をするよう促したい。

ライナス・ポーリング

ポーリング博士のこと——まえがきに代えて

その日、雨あがりのカリフォルニアの空は、抜けるように青く澄み渡っていた。ユーカリの並木を一陣の風が吹き抜ける。

一九八七年二月。ライナス・ポーリング博士は私との対談のため、サンフランシスコのご自宅から空路、創価大学ロサンゼルス分校の開所まもないキャンパスまで出向いてくださった。

こうして私たちの初めての対話が始まった。語らいは、初対面とはいえ、旧知のような温かさに包まれたものとなった。

二十世紀科学界の巨人といわれる存在でありながら、ポーリング博士は、少しも飾ったところがなく、むしろ謙虚さと包容力にあふれていた。

「世界平和のために、私にできることは、なんでも喜んで協力させていただきます」と慈父のごとき笑顔で語ってくださった一言は、いまも私の脳裏から離

れない。

話題は科学、平和、そしてアインシュタイン博士との懐かしい思い出等々、多岐にわたり、たちまち予定の時間が過ぎ去ってしまった。

とても一度の出会いで、すべてを語り尽くせるものではない。そこで、後日、対談集として一冊の本にまとめることが合意されたのである。

対談集完成のために、博士は並々ならぬ情熱を注いでくださった。それは、いまなお寸暇を惜しんで化学・医学上の研究にあたり、論文を書かれている多忙のなかでの作業であった。広大な太平洋を眼下に望むカリフォルニアのビッグ・サーにある別荘で、この執筆を進められたとうかがっている。

博士の評価は〝現代化学の父〟としてすでに不動である。さらに化学のみならず、生物学や医学の分野でも、画期的な業績を上げておられることは、本対談からもよくうかがえるところであろう。

周知のように博士は二度ノーベル賞を受けている。単独で二度受賞したのはポーリング博士ただ一人である。ダーウィン、ガリレイ、ニュートン、キュリー夫人、アインシュタインなどと同列に並び、史上最高の科学者の一人として位置づけられている。

博士は今年（一九九〇年）八十九歳。一九〇一年の生まれであるから文字どおり二十世紀を生き抜いてこられた。二度の世界大戦に苦しみ、核の脅威にさらされた今世紀にあって、博士は、いかなる軍事力にも屈しない精神の力の勝利を一貫して訴え、行動されてきたのである。

博士に対しては理不尽な批判もあった。しかし徹底したヒューマニストとして正義の信念を貫いておられるのは、見事というほかない。

本対談が、そうした博士の真実の姿をより深く知っていただく機会になることを私は願う。対談のなかで、博士は幼少からの成長の軌跡に加え、科学者、平和活動家としての信条を、豊富なエピソードを交え、率直かつ平易に語ってくださった。

二十一世紀へ羽ばたく青年たちが、この対談集から明日を生きるためのなんらかの示唆を得てくだされば、両著者にとって望外の喜びである。これがポーリング博士と私が対談を始めるさいの、そもそもの出発点であったからである。

池田大作

「生命の世紀」への探求——目次

まえがき
ポーリング博士のこと

第一章　二十世紀とともに

初めての出会いから　13
少年のころの思い出　18
青春時代の労苦　22
読書のこと師のこと　26
忘れ得ぬ人々　32
創造と活動の源泉　36

第二章　わが人生の譜

教育と探究心　43

家庭を語る　48
結婚と女性の役割　52
日常の一端から　55
ノーベル賞をめぐって　58
信仰と理性　60
人間の幸福の条件　65

第三章　人間にとって科学とは

人類に貢献する科学　71
宇宙と生命の起源　76
科学者の社会的責任　81
思い出のアインシュタイン　85
アインシュタインの世界観　91
科学者が留意すべきこと　95
科学の発達と精神の開発　98
道徳科学をめぐって　104

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

第四章　「生命の世紀」への選択

人口問題の行方　109
二十一世紀のイメージ　113
分子矯正医学のこと　116
なぜビタミンCなのか　121
健康法について　127
ストレスの解消法　131
科学とインスピレーション　136
死ぬ権利をめぐって　142
「脳死」へのアプローチ　148

第五章　世界不戦を目指して

核時代と人類　155
権力に抗して　159
反核の運動　164
パグウォッシュ会議の意義　168

世界市民への道　174
人種問題の展望　179
米ソ関係の新展開　184
不信と相互理解　190

第六章　恒久平和の提言

軍縮の時代　197
平和のために走る　200
国連への期待　204
「平和省」の設置　209
民衆運動の役割　214
宗教者の平和運動　219
絶対的平和主義について　223
世界のなかの日本　232
引用文献一覧　235

装丁　渋川　育由

第一章　二十世紀とともに

✳ 初めての出会いから

池田　偉大な科学的業績を上げられ、世界でも大変著名な博士に、ロサンゼルスでお会いできて光栄です。これ以上の喜びはありません。サンフランシスコからわざわざお越しくださり、恐縮しております。私どもに対するご理解とご足労に、重ねて感謝申し上げます。

ポーリング　とんでもありません。実をいうと池田創価学会インタナショナル（SGI）会長とお近づきになれるのは、私にとっても大きな喜びなのです。

とくに世界平和を達成するために大変な努力をされている方とお会いできたのを喜んでおります。

その努力が実るよう私にできることは、なんでも喜んで協力させていただきます。

池田　そのように言っていただいて感謝の言葉もありません。ご懇切なお言葉に心から感動しました。

博士が全人類のために、深い心をもたれていることを実感します。また、世界平和のた

めに、強い確信と深き哲学をもって行動されてきたことを感じました。私の今後の活動に大きな励ましになることは間違いありません。

ポーリング　どうもありがとうございます。それと、あなたの息子さんにお会いできたのもうれしい。

池田　息子のことをおっしゃってくださり恐縮です。

息子たちは二人とも、私と同様に博士のことを大変尊敬しておりまして、ちょっとでもご挨拶できればというもんですから。

ポーリング　そうですか。

池田　博士は〝現代化学の父〟と呼ばれている方ですし、全人類のために平和を推進してこられた実践家としても、息子たちが博士にお目にかかれるのは、大きな教育にもなると思いまして。息子たちにとって生涯の思い出になったはずです。

ポーリング　それから、この大学（創価大学ロサンゼルス分校）の学長にもお会いできてうれしく思いました。大学が成功されることを心から希望いたします。なにかお手伝いすることがあれば、どうぞおっしゃってください。

池田　なにからなにまで温かいお言葉をいただき、なんとお礼を言っていいかわかりません。博士の励ましは、わが子を慈しむ父親のようでもあります。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com